

学校施設の有効活用等に向けたモデル事業の評価と今後の方向性について

区は、学校施設の更なる活用を進め、区民の学校施設利用機会の拡大と地域スポーツ振興に資する事業の展開を図るとともに、部活動における顧問教員の負担を軽減しながら、専門的指導等による内容の充実を図るため、モデル事業を実施することとし、令和3年度に公募型プロポーザル方式により事業者を選定し、令和4年3月から事業を開始しました。

このたび、高円寺学園で実施しているモデル事業（「学校施設の利用調整」「学校施設を活用したスポーツ振興事業」「中学校の新たな部活動の支援業務」）について、この間の利用実績の把握・分析やアンケート調査等の結果を踏まえて評価を行うとともに、今後の方向性についてまとめましたので報告します。評価及び今後の方向性の概要は、下記のとおりです。

記

1 事業実施状況と評価 ※主なもの

(1) 学校施設の利用調整

- 学校施設の開放事業は利用枠の設定、体育館の半面使用（大アリーナ）、システムによる利用調整を行っていなかったが、モデル事業ではこれらの点について他の区立施設と同等の設定とすることで利用機会の拡大を図った。
- システム化により、予約や空き枠の確認が容易になり、利用の少なかった一部室場（交流ホール）の利用数の増加、モデル校の利用登録団体数の増加が見られた。
- システム導入により、毎月行っていた利用者間の施設利用に関する利用調整会議に参加する必要がなくなったことをメリットと感じている団体が多い一方、システムの使い勝手や施設の使用ルールの共有、団体同士の情報交換の機会の減少等を課題と感じる声もあり、システム導入に当たってはこうした意見も参考にしていく必要がある。
- 利用枠設定により本来の学校の活動である部活動への影響が生じることや、予約システム導入により学校関係者にシステム運用に係る新たな負担が生じるなどの課題が明らかになった。

(2) 学校施設を活用したスポーツ振興事業

- 利用枠の一部を活用し、5事業7種目の事業を実施し、延149名が参加した。参加者からの評価は「今後スポーツを行うきっかけづくりとなった」との回答が9割を超え、学校施設においてもスポーツを行う場になることが期待できる。
- 当初は、予約抽選後の空き枠を活用して事業を行うことを想定していたが、事業の事前準備や周知に時間を要するため、予約開始前にあらかじめ枠を確保して実施することとなった。一方で、モデル事業開始当初から団体での利用ニーズが高く、使用率は9割を超えており、当初想定していた空き枠の活用とは異なった結果となった。

(3) 中学校の新たな部活動の支援業務

- 高円寺学園における全運動部（5部活）を対象として、顧問業務、技術指導、大会引率等の業務を事業者へ委託した。

- 生徒や保護者へのアンケート結果では、事業者の部活動支援員による部活動の指導等に対して高い評価が示され、顧問教員へのアンケートでも、「時間外勤務が改善された(75%)」、「今後も部活動支援員に部活動を任せたい(100%)」と好評であった。
- 事業者による部活動の指導、大会引率、保護者との円滑な連絡・調整等の実施により、生徒にとって望ましい部活動が一定程度実現し、部活動の内容の充実が図られるとともに、教員の負担軽減にもなった。

2 今後の方向性

- 学校施設へのシステム導入については、一定の利便性の向上が図られたが、今後は経費面やわかりやすさを考慮し、モデル事業で導入した独自システムではなく、区の公共予約システム「さざんかねっと」での運用を行う。教育活動の場である学校施設において「さざんかねっと」の導入を進めるに当たっては、モデル事業の中で把握した、社会教育施設とは異なる面に配慮し、運用方法を検討していく。
- スポーツ振興事業については、高円寺学園は団体での利用ニーズが高く、事業実施のための利用枠の創出や参加費の徴収等に課題が残ることから、令和6年度に高円寺学園で、モデル事業と同様の仕組みで事業を継続することについては、いったん立ち止まる。
- 今後の部活動支援については、国・都が、部活動に関するガイドラインに示した学校部活動の地域クラブ活動への移行に関しても検討を進める必要がある。今年度新たに設置した、部活動の地域との連携及び地域への移行等の部活動の在り方を検討する検討委員会の中で、現行の部活動の課題や問題点を整理するとともに、モデル事業で実施した「中学校の新たな部活動の支援業務」を、最終的に部活動ではなく地域クラブ活動に移行できるような取組として継承・発展させ、区内に実施展開する持続可能な方法を検討することとする。
- この間、学校施設管理権限の区長部局への移管を視野に検討を行ってきたが、教育活動中は教育委員会、放課後は区長部局というように時間で管理権限を切り分けるのは法的に困難である。学校施設が地域スポーツだけでなく、文化活動の振興等にも資する場でもあり、それらに関する事務は教員が負担することが必須でないものも含まれることから、区長部局が一部事業を執行することも含め、学校施設全体の事務の効率化につながるよう学校施設のあり方を検討する。
- 学校施設の有効活用と部活動支援を一体的に委託したことにより、部活動とスポーツ振興事業間における人材の活用や学校における問い合わせ先の一元化など、一定のメリットは認められた。しかし、「学校施設の利用調整」については令和7年3月にさざんかねっとを導入する予定であること、「中学校の新たな部活動の支援業務」については、国・都が示した部活動に関するガイドラインを踏まえ、学校部活動の地域クラブ活動への移行等に向けて丁寧に検討を進める必要があることなど、状況がそれぞれ異なることから、今後の他校への展開については、一体ではなく、学校ごとの実態を踏まえて個別に取組を進めていく。

3 その他

事業実施状況と評価の詳細については、別紙「学校施設の有効活用等に向けたモデル事業の評価について」のとおり。

学校施設の有効活用等に向けたモデル事業の評価について

学校施設の有効活用等に向けた取組については、学校施設をより一層有効活用する仕組みを構築して区民の健康スポーツ活動の一層の活性化を図るとともに、教員の負担軽減と部活動の内容の充実に資する新たな部活動支援に向けたモデル事業を実施することとし、令和3年度に公募型プロポーザル方式により事業者を選定し、令和4年3月から事業を開始したところである。

この度、高円寺学園で実施しているモデル事業（「学校施設の利用調整」「学校施設を活用したスポーツ振興事業」「中学校の新たな部活動の支援業務」）について、この間の利用実績の把握・分析やアンケート調査等の結果を踏まえて評価を行った。

1 評価の目的

モデル事業の実績結果から、目的に見合った事業展開になっていたかを判断し、必要に応じた事業の拡充・見直しを行うため。

2 評価の視点

- システム導入によって利便性の向上が図られているか。また、利用枠及び片面利用の設定により有効活用が適切に図られ、利用拡大に繋がっているか
- 学校施設を活用し、区民のスポーツ・運動の普及と自主的・継続的な地域スポーツ活動の推進が図られているか
- システム導入により生み出された利用枠を活用し、スポーツ振興に資する事業を実施することにより、学校施設を有効活用する仕組みが構築されたか
- 事業者による部活動の専門的指導等の実施により、部活動の内容の充実、顧問教員の負担軽減が図られたか

3 評価の方法

(1) 実績の把握・分析

学校施設の利用調整について、利用調整システム導入後の施設の利用実績を把握・分析した。スポーツ振興事業については参加状況等を集計して傾向を分析した。中学校の新たな部活動の支援業務については、生徒、保護者、教員へのアンケートの結果から事業効果等について分析した。

(2) アンケート調査

スポーツ振興事業においては各事業終了時に参加者に対するアンケートを実施した。中学校の新たな部活動の支援業務においては、生徒、保護者、教員に対するアンケートを実施した。

(3) ヒアリング調査

学校施設の利用調整について、利用者である利用者団体の代表者に対して電話によるヒアリングを実施した。また、学校関係者（校長、副校長、用務業務従事者）に対しては対面による聞き取りを行った。

4 事業実施状況と分析

(1) 学校施設の利用調整

学校施設の開放事業については、他のスポーツ施設のように決められた利用時間枠がなく、利用登録団体が一同に集まって利用時間を調整しているため、その利用時間の合間に空き時間が発生することがある。不用な空き時間の削減が図られるよう、当モデル事業では予約システムを導入し、令和4年5月利用分より利用時間枠を設定した。また、大アリーナにおいては、半面利用を新たに導入した。

<モデル事業における利用枠の設定状況>

ア 高円寺学園の休業日

○校庭

a 夏季（3月～10月）

8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	21:00
枠1	枠2	枠3	枠4	枠5	照明無しのため利用対象外	

b 冬季（11月～2月）

8:00	10:00	12:00	14:00	17:00	21:00
枠1	枠2	枠3	枠4	照明無しのため利用対象外	

○大アリーナ（通年）（半面使用あり）

8:00	11:00	14:00	18:00	21:00
枠1	枠2	枠3	枠4	

○小アリーナ及び交流ホール（通年）

8:00	11:00	14:00	18:00	21:00
枠1	枠2	枠3	枠4	

○会議室（通年）

8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	21:00
枠1	枠2	枠3	枠4	枠5	枠6	

イ 高円寺学園の休業日を除く日

○校庭（通年）

利用枠は設定しない。

○大アリーナ（通年）（半面使用あり。）

8:00	18:00	21:00
学校使用のため利用対象外		枠1

○小アリーナ及び交流ホール（通年）

8:00	18:00	21:00
学校使用のため利用対象外		枠1

○会議室（通年）

8:00	18:00	21:00
学校使用のため利用対象外		枠1

①利用枠の拡大について

予約システム導入前と導入後における、各月の利用件数を比較し、現在の利用枠設定が利用機会の拡大に繋がっているかを検証した。

ア) 校庭

【利用状況】

- システム導入当初から利用ニーズが高く、開放時間に空きがない。
- 利用件数で比較すると前年度よりも減少している。
- 利用団体数で比較してみると、令和3年度の107団体に対して、令和4年度は105団体と横ばいであった。
- 利用件数の利用時間ごとの分布を見てみると、システム導入前は3時間を超える長時間の利用が一定割合を占めていたものの、モデル事業による利用枠導入により2時間単位の利用が基本となった。

校庭利用実績（延件数） (件)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
令和3年度	27	18	24	15	23	10	20	7	8	14	14	180	543 時間
令和4年度	22	15	19	9	16	26	5	14	9	8	10	153	355 時間
増減	-5	-3	-5	-6	-7	16	-15	7	1	-6	-4	-27	-188 時間

※予約システム導入後（令和4年5月利用分から）の使用実績を前年同月と比較

※利用時間数に関わらず、1回の利用を1件とカウント

校庭利用団体数実績（実数） (団体)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度	11	12	10	8	11	7	12	7	6	11	12	107
令和4年度	13	11	13	5	11	15	5	10	8	7	7	105
増減	2	-1	3	-3	0	8	-7	3	2	-4	-5	-2

校庭利用実績における利用時間数の内訳

利用時間	令和3年度		令和4年度	
	件数	割合	件数	割合
1時間	0	0%	1	1%
2時間	101	56%	134	88%
3時間	14	8%	10	7%
4時間	44	24%	8	5%
5時間	8	4%	0	0%
6時間	10	6%	0	0%
7時間	1	1%	0	0%
8時間	2	1%	0	0%
	180		153	

【分析】

- 1つの団体が1回の利用に任意の時間数を設定することができないことにより、開放時間内により多くの団体が分け合って利用することが可能となった。
- 利用件数減少については、学校活動の実施状況による開放時間の差に大きく影響を受けており、全てが利用枠設定に起因するものであるとは言えない。

イ) 体育館

【利用状況】

- システム導入当初から利用ニーズが高く、開放時間に空きがない。
- 利用件数で比較すると前年度よりも減少している。
- 体育館の利用枠は3時間または4時間を単位としているが、利用時間数の内訳を見ると2時間の利用が一定の割合を占めており、利用枠の一部が有効に活用されていない。

体育館【大アリーナ、小アリーナ】利用実績（延件数）

(件)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
令和3年度	83	67	79	86	89	73	83	74	74	80	74	862	2,292 時間
大アリーナ	44	35	40	47	33	32	20	34	35	41	28	389	1,058時間
小アリーナ	41	33	39	34	32	38	38	32	34	37	39	397	1,107時間
	85	68	79	81	65	70	58	66	69	78	67	786	2,165 時間
増減	2	1	0	-5	-24	-3	-25	-8	-5	-2	-7	-76	-127 時間

※予約システム導入後（令和4年5月利用分から）の使用実績を前年同月と比較

※利用時間数に関わらず、1回の利用を1件とカウント

※令和3年度集計については大アリーナと小アリーナの区別なし。

体育館利用実績における利用時間数の内訳

利用時間	令和3年度		令和4年度	
	件数	割合	件数	割合
1時間	34	4%	5	1%
2時間	332	39%	272	35%
3時間	413	48%	472	60%
4時間	62	7%	36	5%
5時間	15	2%	0	0%
6時間	6	1%	1	0%
	862		786	

【分析】

- 利用枠の設定においては、これまでモデル校を利用してきた団体の利用傾向を踏まえて、3時間を基本とする長めの時間枠設定で事業を開始した。しかし3時間未満の細かい時間設定で使用してきた団体も多かったことから、利用枠の設定が利用件数の増加には繋がらなかったものと考えられる。
- 利用枠の一部の時間が有効に活用されていないことを踏まえ、体育館の利用枠設定については見直しが必要である。
- 区内体育施設の利用はいずれも2時間を単位としていることから、多様な活動内容に対応でき、かつ効率的に時間を使うことのできる利用枠の単位として、2時間枠での運用をモデル実施してみる必要がある。
- 学校施設特有の課題として、更衣の時間を含めた利用枠設定となることや、室場の準備に時間がかかることなどが挙げられる。3時間利用に占める実活動時間の実態を把握するとともに、2時間枠導入の際に活動が大きく制限されないことがないよう、運用方法について検討していく必要がある。

ウ) 会議室、交流ホール

※交流ホール：昇降口に面する位置に設けられた、多目的利用が可能なホール
(貸出ピアノあり)

【利用状況】

- システム導入前後を問わず、会議室の利用実績は少ない。
- 交流ホールはモデル事業開始前より一部種目（「チアダンス」「阿波踊り」「コーラス」）の団体によって活用されてきたが、システム導入後に「バレエ」「空手」の団体の利用も進んだことから、利用件数が大きく増加した。
- 交流ホールについては、抽選後の空き枠申込による予約が多い。
- 3時間の利用実績が全体の7割以上を占めている。

会議室等【会議室、交流ホール】利用実績（延件数）

(件)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
令和3年度	1	1	10	7	4	7	9	10	3	6	22	80	239 時間
令和4年度													
会議室			4		1	1	4				2	12	29時間
交流ホール	13	10	11	17	18	17	13	12	9	8	17	145	432時間
	13	10	15	17	19	18	17	12	9	8	19	157	461 時間
増減	12	9	5	10	15	11	8	2	6	2	-3	77	222 時間

※予約システム導入後（令和4年5月利用分から）の使用実績を前年同月と比較

※利用時間数に関わらず、1回の利用を1件とカウント

※令和3年度集計については会議室と交流ホールの区別なし。

会議室等(会議室、交流ホール)利用実績における利用時間数の内訳

利用時間	令和3年度		令和4年度	
	件数	割合	件数	割合
1時間	0	0%	5	3%
2時間	13	16%	21	13%
3時間	59	74%	112	71%
4時間	6	8%	18	11%
5時間	0	0%	0	0%
6時間	2	3%	1	1%
	80		157	

【分析】

- 交流ホールについては、抽選後の空き枠申込による予約が多いことから、大・小アリーナの予約が取れなかった場合の代替場所としての機能を果たしていると考えられる。
- 交流ホール利用件数の増は、空き枠確認や予約を簡単に行うことができるというシステム化のメリットが、利用率向上に結び付いた結果と捉えることができる。
- 体育館の利用枠を2時間に見直していく方向の中で、時間的ゆとりをもって活動できる室場を選択肢として残すことは、利用者の活動の幅を広げることにも繋がる。交流ホールは準備等に時間を要する少年団体の活動実績が比較的多いこと等を踏まえ、3時間を基本とする現行の利用枠を継続することが望ましい。

②利用枠設定における学校活動への影響について

【実施状況】

- モデル事業開始にあたり、大アリーナ・小アリーナの平日夜間の利用枠は学校開放の開始時間として定めている 18 時からに設定した。
- 従来、18 時まで練習等を行った後に後片づけを行っていた運用を、後片付けも含めて 18 時までには室場を出る運用に変更したことにより、部活動の活動時間に支障が生じる結果となった。

【分析】

- システム導入以前から、平日夜間の学校開放は 18 時を開始時間としていたが、利用調整会議等における利用調整や、使用団体による配慮等、学校活動に支障のないように利用しようとする慣習により、特段問題なく学校開放事業が行われていた。システム導入により、そうした調整が行われにくくなることが明らかとなった。
- 部活動の活動時間を十分に確保したうえで、片付けや生徒が完全に下校するまでにかかる時間も考慮すると、平日夜間の利用は 18 時 30 分以降の開始が望ましい。
- 今後システム導入により利用枠を設定するにあたっては、利用団体の自主的な調整機能により回避できていた運用上の課題についても考慮する必要がある。

③大アリーナの半面利用について

【利用状況】

- モデル実施で新たに導入した大アリーナの半面利用については、令和 4 年度末現在で利用実績が 4 件と利用が進んでいない。
- 利用実績 4 件のうち、2 件は空き枠予約によるものであったが、残りの 2 件は当日の参加者が少なかったことにより、全面予約を半面に変更したことによる実績であり、積極的な利用ではない。
- 体育施設で 1/2 面以下の利用率が高い種目（卓球・バドミントン等）の団体の申込状況を見てみると、いずれの団体も小アリーナの利用を希望しており、大アリーナの半面利用に対するニーズは少ない。

半面利用実績

(件)

令和4年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用実績	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	4

【分析】

- 利用が進まない要因として、活動種目によっては半面では狭いこと、また全面利用の使用料が廉価なため、一般の体育施設と比べて金銭面でのインセンティブが働きにくいことが考えられる。

< 高円寺学園の使用料（2 時間あたり） >

大アリーナ 全面：1,200 円 / 半面： 600 円

【参考】 高円寺体育館 全面：6,000 円 / 半面：3,000 円

- 大アリーナは利用ニーズが高く、一次抽選の時点で全面利用により利用枠が埋まっている状況である。小アリーナの利用を希望する団体が、2次抽選以降に大アリーナの半面利用を申し込むことはできず、小アリーナの代替場所としての機能も果たせていない。

④登録団体数の推移について

【実施状況】

- 令和4年度中の新規登録は9団体であった。
- 既に他校で登録していた団体が、年度更新手続きの際に登録校を高円寺学園に変更したケースが6件あった。

令和4年度 高円寺学園登録団体数推移

	令和4年												令和5年			合計
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
新規登録による増		1	2	1		1	2	1		1				9		
登録校変更による増					1							1	6	8		
年度更新による減													-6	-6		
登録団体数（各月末）	66	67	69	70	71	72	74	75	75	76	76	77	77			

【分析】

- 他校と比較すると、新規登録、登録校変更ともに多く、システム導入による利便性向上が登録団体の増加に結び付いたものと思われる。
- 一方、登録団体の大幅な増加で、モデル校の利用団体のみが大きく活動を制限される状況が生じないように配慮する必要がある。利用団体の理解を得ながら、利用できる枠を増やす取り組みを行いつつ、状況を見ながら段階的に団体数を増やしていく必要があり、積極的に団体数を増やす取組をする段階ではない。
- また、特定の学校に登録が集中しないようにするという観点から、利用調整システムは複数の学校を対象に、同時期の導入を検討していくことが望ましい。

⑤システム導入について

【アンケート結果】

別紙1のとおり

※R4.5~8月に高円寺学園の大アリーナ・小アリーナ・交流ホールの利用実績がある28団体を対象に、電話により実施。(令和4年10月18日~28日)

- システム導入に対しては、7割を超える団体が「利用調整会議に参加する手間が省ける」ことをメリットとして挙げた。
- 一方で、「活動回数が減った」「定期的な活動がしにくい」「他団体との情報交換や譲り合いができない」「学校使用のルールが共有されにくくなっている」等のデメリットも挙げた。
- 14団体(50%)がシステムに使いにくさを感じており、モデル事業で調達したシステムの使い勝手に対して改善を望む声が多い。
(大アリーナの全面申込方法が煩雑、画面遷移がわかりにくい、予約申込後に空き枠が確認できない等)

【分析】

- 高齢者の多い団体においては、毎月の抽選申込に苦勞している状況も見られる。幅広い年代の利用団体が使いやすいよう、システム導入にあたっては、ウェブアクセシビリティを重視する必要がある。
- 利用調整会議が担っていた利用調整以外の機能（情報共有等）をどのように補っていくかについても課題である。

⑥事務負担の軽減について

【ヒアリング結果】

別紙2のとおり

※学校関係者（副校長、用務業務受託事業者）対象。令和4年11月実施

- 予約システム導入により、利用者団体協議会に係る副校長の負担は軽減されたものの、システム運用にかかる新たな負担が生じている。
（学校利用枠の入力、入力内容のダブルチェック等）
- 主事室における運用面でも課題が見られる。予約システム導入により、現地で申請書を記載したり、利用券を添付したりする必要が生じ、複数の団体が同時に手続きすることになる時間帯の対応に苦慮している。また、使用申請書を主事室で出力する対応も現行の人員体制では難しい。
- 高円寺学園のみを別のスキームで開放することにより、学校開放担当職員の業務としても負担が増えている。
（登録団体へのID・PW発行、年度更新の団体情報作成、統集計等）

【分析】

- 学校開放事業においては、事務の作業量と手順の煩雑さによる負担が大きいという課題があるが、システム導入で軽減できるものがある一方、新たな負担も生じることを踏まえて、システム化を検討する必要がある。
- また当モデル事業において、システム導入にかかる運用上の課題解決に、相応の費用負担が生じる結果となっている状況を鑑みると、今後の対象校拡大にあたっては、事務の役割分担や事務の運用方法について十分に検討することが不可欠である。

(2) 学校施設を活用したスポーツ振興事業

事業目的として、「学校施設を活用し、より多くの区民がスポーツ・運動を身近に感じられる事業を展開することで、現在よりもスポーツ・運動を継続的に行うことにつなげ、地域における自主的・継続的な地域スポーツ活動を推進する。」ことを掲げ、5事業7種目について実施した。

①実施状況

No	開催日時	種目	開催場所	募集人数	参加者数	良かった点 (アンケート抜粋)	悪かった点
1	6月12日(日) 12:00-13:30	タグラグビー	校庭	50人	22人 小学生12 保護者10	いつも通っている学校での開催に評価があった。 子どもたち全員から「次回も参加したい」などの肯定的な意見が寄せられた。	募集人数に対して、参加者数が半数程度であった。
2	6月25日(土) 12:00-13:30	ポジティブ ヨーガ	大アリーナ	30人	30人	幅広い世代(20~80代)からの参加があった。 運動不足の解消やリラックスできる効果から、継続的な開催を希望する声が寄せられた。	会場の入り口が分からないなど、案内の不備に関する参加者から意見があった。
3	9月4日(日) 12:00-13:30	自重トレーニング	大アリーナ	30人	29人	「用具不要で家でも続けられそう」との意見があった。 日常生活の中で、定期的な運動をしていないと回答した全員(18名)から、「スポーツや運動を行うきっかけづくりになった」との回答を得た。	2時間の教室であることを案内していたが、30分程度早く終了したことに対して、参加者から意見があった。
4	9月11日(日) 12:00-13:45	タグラグビー	校庭	50人	27人 小学生12 保護者12	教室に参加した全員が「満足、良かった」と回答し、「大人と子どもが一緒になって親子で楽しめる」、「身体を動かす機会ができるなどの感想が寄せられた。 6/12の参加者のリピート参加があった。	募集人数に対して、参加者数が半数程度であった。
5	10月2日(日) 12:00-14:00	ノルディック ウォーキング	交流ホール 小アリーナ	30人	21人	60代、70代を中心に、多くの参加者から体力づくり健康づくりになったとの意見があった。	当日になって会場(小アリーナ)が使用できないことが分かり、急遽交流ホールを使用した。
6	10月17日(月) 19:00-20:15	ポジティブ ヨーガ	大アリーナ	30人	14人	平日夜における開催について肯定的な意見があった。	参加者受付時の個人情報への配慮や、感染症対策の徹底について、参加者から意見があった。
7	10月30日(日) 12:00-13:30	ゴールボール	大アリーナ	30人	6人	パラスポーツ体験は好評であった。	募集人数に対して、参加者数が少なかった。

参加者計 149人

②参加者アンケート結果

別紙3のとおり

※各事業の参加者(延149名)対象。

③分析

○事業目的について

参加者アンケートでは「今後スポーツを行うきっかけづくりになった」との回答(94.2%)を得るなど、事業目的を概ね達成できた。

○運営体制について

事業者から区への教室内容の提案の遅れや、当日の運営方法に関して参加者から指摘を受けるなどの不備があったものの、当初の予定どおり事業を実施することができた。

○講師手配について

講師が提供するプログラム・指導は教室参加者から高評価であった。とくにタグラグビー教室での大学ラグビー部学生によるアシスタントの配置は、子どもと学生のふれあいの機会が生まれ、参加者からの評判が良かった。

○広報・周知について

チラシの作成内容や配布先などの広報・周知に関して、事業者からは具体的な提案がなく、効果的な広報・周知に課題があった。

○企画の適正について

参加者アンケートでは、教室全体の満足度(満足・やや満足が95.2%)や今後の参加意向(97.9%)が高い結果となったが、種目選定の理由が不明確であったり、定員に対する参加者数に空きが多く発生するなど課題がある。

(3) 中学校の新たな部活動の支援業務

生徒にとって望ましい持続可能な部活動の実施及び教員の部活動の指導等に係る負担軽減を図るため、高円寺学園における運動部全5部活(軟式野球部、バスケットボール部、サッカー部、ソフトテニス部、バドミントン部)の支援業務を実施した。

①実施状況

○部活動の指導

指導日は、週4日以内、1日当たりの指導時間は、平日2時間以内、週休日(祝日等を含む。)3時間以内、長期休業期間中を3時間以内とし、事業者の部活動支援員による部活動の指導を実施した。

ア 軟式野球	授業の期間・平日(月～金)3日
イ バスケットボール	授業の期間・平日(月～金)4日
ウ サッカー	授業の期間・平日(月～金)2日
エ ソフトテニス	授業の期間・平日(月～金)4日
オ バドミントン	授業の期間・平日(月～金)3日、週休日(土・日)1日

○競技大会・練習試合への引率

種目ごとに年間3回、1回8時間程度とし、事業者の部活動支援員による競技大会・練習試合への引率を実施した。

○高円寺学園、保護者との連絡・調整

部活動支援員の他に統括責任者を1名配置し、部活動の支援に当たり、高円寺学園の顧問教員等や保護者と円滑な連絡・調整を行った。

②参加者アンケート結果

別紙4のとおり

※中学校の新たな部活動の支援業務関係者（生徒56名、保護者26名、教員4名）を対象

③分析

○生徒・保護者にとって望ましい部活動の実施

生徒へのアンケート結果に、「88%の生徒が、部活動に楽しく取り組んでいる」「82%の生徒が、コーチの指導に満足している」等が示されていること、保護者へのアンケート結果に、「81%の保護者が、今後もコーチの指導を希望している」「93%の保護者が、教員以外の指導者が部活動を担うことに賛成している」等が示されていることから、事業者の部活動支援員による部活動の指導等に対して、高い評価を得ている。

こうしたことから、事業者による部活動の指導等の実施により、生徒にとって望ましい部活動が一定程度実現し、部活動の内容の充実が図られた。

○教員の部活動指導等に係る負担の軽減

先生へのアンケート結果に、「75%の教員が、時間外勤務が改善されたとしている」「100%の教員が、今後も部活動支援員に部活動を任せたいと思っている」等が示されていることから、事業者の部活動支援員による部活動の指導、統括責任者による顧問教員等との円滑な連絡・調整に対して、高い評価を得ている。

こうしたことから、事業者による部活動の指導等の実施により、教員の負担軽減が図られた。

5 モデル事業の評価

(1) 学校施設の利用調整

○当初設定した利用枠の設定などに課題があり、利用枠の拡大（利用機会の増）にはなかなか繋がらなかったものの、これまで利用が少なかった室場の活用が進むなど、システム化により施設の空き状況が可視化されたことによる一定の効果が認められた。

○システム導入により利用調整会議への参加が不要となり、団体からは概ね賛成の意見が多い反面、地域住民が互いの活動を知り、調整の上学校を利用する今までの利用調整会議を通じて行われてきた学校使用のルール共有や団体同士の情報交換の機会が減少したことについて、問題であるという声もあった。システム構築の際はこういった利用者の意見も参考にする必要がある。

○システム導入により団体の利用促進が図られたが、本来の学校の活動である部活動への影響が生じることや、学校関係者にシステム運用に係る新たな負担が生じることが明らかになった。また、学校の施設や管理面の問題により、開放団体の活動準備、片付けの時間等の課題も生じており、教育施設としての社会教育施設とは異なる面に配慮した運用方法の検討が欠かせない。

- モデル事業で導入したシステムについては、多くの団体から使いにくいという声があがっていることから、今後は高齢者等も含めた誰でも使いやすいシステムであることに配慮して、導入拡大を進めていく必要がある。

(2) 学校施設を活用したスポーツ振興事業

- 利用枠の一部に5事業7種目の事業を実施し、延149名が参加した。参加者からの評価は「今後スポーツを行うきっかけづくりとなった」との回答が9割を超え、学校施設においてもスポーツを行う場になることが期待できる。
- 当初は、予約抽選後の空き枠を活用して事業を行うことを想定していたが、事業の事前準備や周知に時間を要するため、予約開始前にあらかじめ枠を確保して実施することとなった。一方で、モデル事業開始当初から団体での利用ニーズが高く、使用率は9割を超えており、当初の事業の想定とは異なる結果となった。

(3) 中学校の新たな部活動の支援業務

- 上記4の(3)③の分析結果のとおり、事業者の部活動支援員による部活動の指導、競技大会・練習試合への引率及び統括責任者による顧問教員等や保護者との円滑な連絡・調整の実施により、本モデル事業の目的である、部活動の内容の充実、顧問教員の負担軽減は十分に図られた。
- 本支援業務は1部活当たり約440万円の経費が発生しており、現行の仕組をそのまま、その他の区立中学校22校に実施展開するには、多大な経費が必要である。必要な経費も十分に考慮し、本支援業務の実施展開方法について、更なる検討が必要である。

6 事業の課題及び今後の方向性

- 学校施設の有効活用等に向けた仕組みの構築については、利用時間枠を設定し、施設予約システムを導入したことで、学校開放団体の利用が促進され、より多くの区民が学校施設を利用することに繋がった。結果として、「地域スポーツの振興」も図られ、事業目的にも適う状況となった。
- 今後は経費面や区民の利便性、わかりやすさに考慮し、モデル事業で導入した独自システムではなく、公共予約システム「さざんかねっと」の再構築に合わせて、学校への施設予約システム導入を順次進めていく。教育活動の場である学校施設にシステム導入を進めるにあたっては、モデル事業の中で把握した、社会教育施設とは異なる面に配慮した運用方法を検討し、システムの仕様等に可能な限り反映させていく。
- モデル事業だったためスポーツ振興事業は「無料」で実施してきたが、区立体育施設が教室事業を継続的に実施する際にはほぼ有料で実施している。「無料」で実施するのであれば、そのコストを区が負担することになるが、「有料」で実施するのであれば参加費の徴収(利用者負担)が必要となるため、利用者負担の有無について引き続き検討していく。
- 高円寺学園は団体での利用ニーズが高く、事業実施のための利用枠の創出等に課題が残ることから、令和6年度に高円寺学園でモデル事業と同様の仕組みでスポーツ振興事業を継続することについてはいったん立ち止まる。
一方、スポーツを行うきっかけ作りに資する事業を学校で実施することの有効性が確認さ

れたことを踏まえ、学校施設におけるスポーツ振興のあり方については引き続き検討していく。

- 今後の部活動支援については、国・都が、部活動に関するガイドラインに示した学校部活動の地域クラブ活動への移行に関しても検討を進める必要がある。

今年度新たに設置した、部活動の地域との連携及び地域への移行等の部活動の在り方を検討する検討委員会の中で、現行の部活動の課題や問題点を整理するとともに、モデル事業で実施した「中学校の新たな部活動の支援業務」を、最終的に部活動ではなく地域クラブ活動に移行できるような取組として継承・発展させ、区内に実施展開する持続可能な方法を検討することとする。

- この間、学校施設管理権限の区長部局への移管を視野に検討を行ってきたが、教育活動中は教育委員会、放課後は区長部局というように時間で管理権限を切り分けるのは法的に困難である。

学校施設が地域スポーツだけでなく、文化活動の振興等にも資する場でもあり、それらに関する事務は教員が負担することが必須でないものも含まれることから、区長部局が一部事業を執行することも含め、学校施設全体の事務の効率化につながるよう学校施設のあり方を検討する。

- 学校施設の有効活用と部活動支援を一体的に委託したことにより、部活動とスポーツ振興事業間における人材の活用や学校における問い合わせ先の一元化など、一定のメリットは認められた。

しかし、「学校施設の利用調整」については令和7年3月にさざんかねつを導入する予定であること、「中学校の新たな部活動の支援業務」については、国・都が示した部活動に関するガイドラインを踏まえ、学校部活動の地域クラブ活動への移行等に向けて丁寧に検討を進める必要があることなど、状況がそれぞれ異なることから、今後の他校への展開については、一体ではなく、学校ごとの実態を踏まえて個別に取組を進めていく。

「杉並区学校施設予約システム」についてのヒアリング結果（概要）

1 事業実施概要

○実施期間 令和4年10月18日～28日

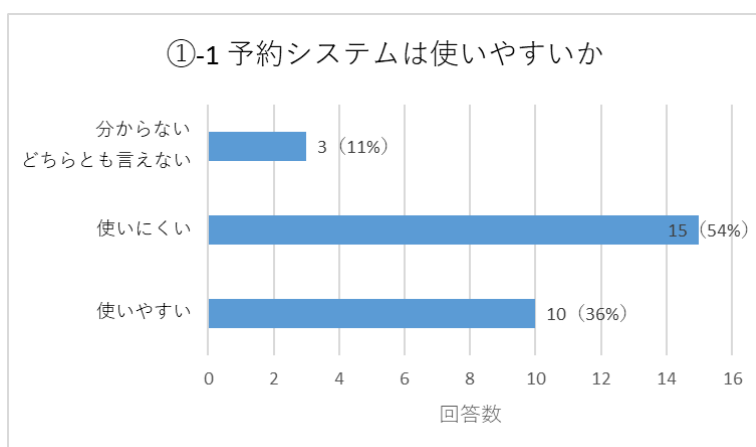
○実施方法 電話による聞き取り（一部メール含）

○対象

令和4年5月～8月に、高円寺学園の大アリーナ、小アリーナ、交流ホールの利用実績がある28団体の代表者

2 ヒアリング結果

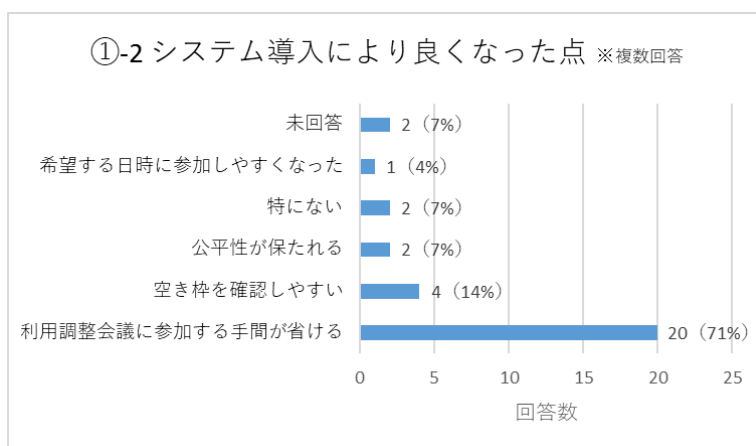
（1）予約システムについて



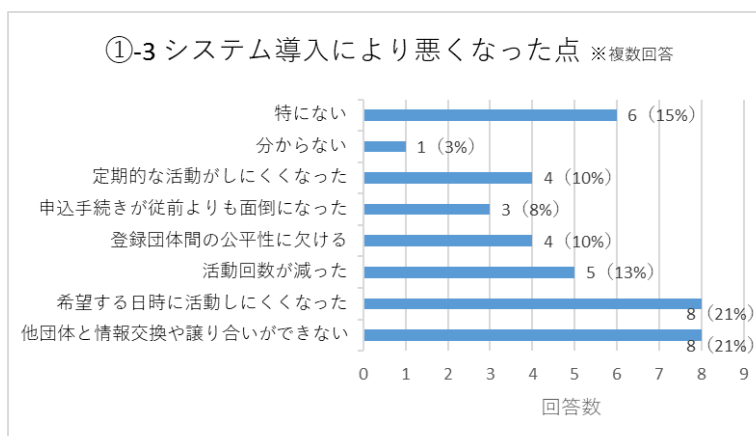
▶約半数の団体が「使いにくい」と回答

使いにくいと回答した主な理由

- ・全面申込の入力が煩雑
- ・画面遷移が分かりにくい
- ・予約申込後に空き枠が確認できない
- ・他団体と交渉ができない
- ・高齢者には分かりにくい



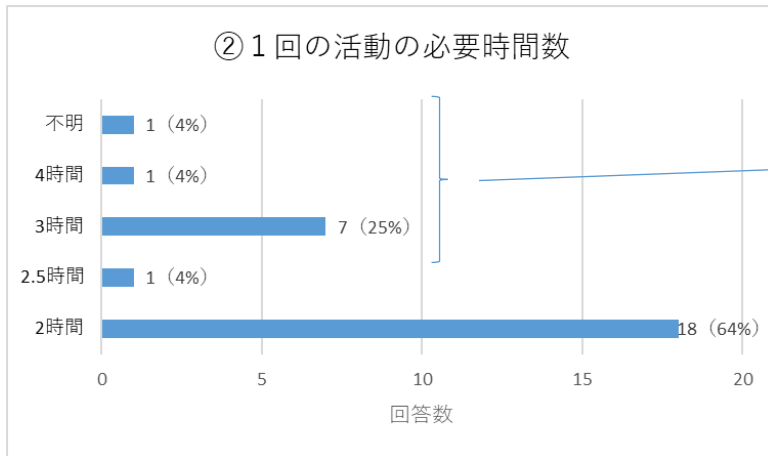
▶7割を超える団体が、利用調整会議に参加する手間が省けることをメリットとして挙げている。



▶抽選になったことにより、希望する日時、定期的な活動がしにくくなっているという回答が多かった。システム導入以前は、譲り合いによって調整していたという声も多く聞かれた。

▶「他団体と情報交換ができない」という回答に関連して、学校使用のルールが共有されにくくなっているというデメリットも挙げられた。

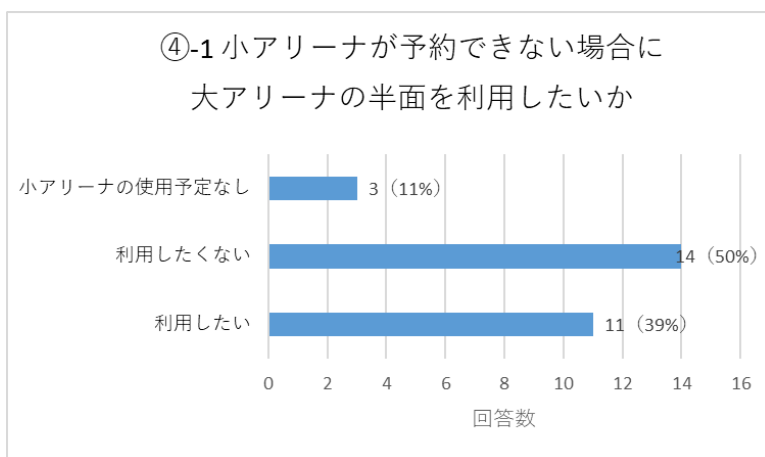
(2) 利用時間・利用枠について



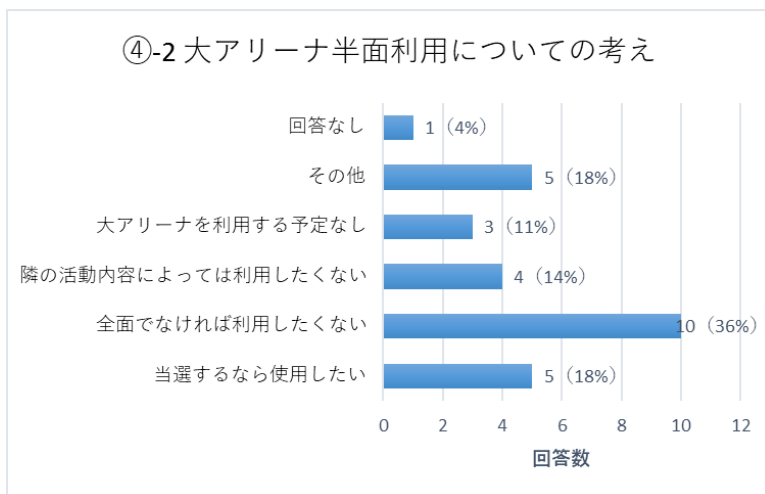
- ▶ 6割を超える団体が、1回の活動に必要な時間数は2時間であると回答。
- ▶ 「2時間」以外の回答だった10団体に対し、「2時間枠に変更した場合に活動に支障が生じるか」を尋ねた結果は以下のとおり。

	回答数	割合
支障あり	7	25%
支障なし	2	7%
時間枠による	1	4%

(3) 半面利用について



- ▶ 大アリーナの半面よりも、小アリーナの貸切利用を希望する団体の方が多い。



- ▶ 「全面でなければ利用したくない」「隣の活動内容によっては利用したくない」を合わせると、半数の団体が半面使用については後ろ向き。
- ▶ 半面利用したくない主な理由
 - ・狭いため、安全面に不安がある
 - ・バスケットコート1面が取れない
 - ・活動内容に対して面積が足りない
 - ・音が出る活動であるため、隣の団体に迷惑がかかる

「その他」：参加人数による／隣で使用する団体の種目が分からず判断できない等

(4) その他 意見・要望等（一部抜粋）

- ・抽選期日が今よりも早くなると、メンバーへの周知やスケジュールを組む上で大変助かる。
- ・使用のルール等についての周知の場がない。ルールを守れない団体に対して、翌月の予約ができないようにするなどのペナルティが必要ではないか。
- ・特定の団体ばかりが利用している学校があるようなので、高円寺学園以外でも予約システム化を進めた方がよい。
- ・抽選結果に波があるため、平均して使用できるようにならないか。

学校関係者へのヒアリング及び説明経過(概要)

1 高円寺学園 主事室ヒアリング

学校開放事業、特に最後の利用枠終了後～業務終了時間までの業務の流れと、団体の退門時間が現状よりも遅くなった場合の影響を中心に、ヒアリングを実施した。

(1)実施概要

- 実施日時 令和4年11月16日 16:00～17:00
- 実施場所 高円寺学園主事室内
- 出席者 高円寺学園副学園長、用務業務受託業者担当、主事4名
学校開放担当係長、新しい学校づくり担当係長

(2)結果

①主事室の懸念事項

- ・21時までに更衣を終えて退門するというルールが、現状でも守られていないことがある。退門時間の設定を今よりも遅くすると、その設定をさらに過ぎる団体が出てくる可能性がある。
- ・高円寺学園は学校の規模が大きく、巡回に時間がかかる。現状でも22時までに全ての見回りを終えるのに時間的余裕がない。見回りの開始時間が遅れると、時間内に終わらせなくてはいけないという焦りからミスが生じる。
- ・予約システム導入により、現地で申請書を記載したり、利用券を添付したりする必要が生じた。主事室前の狭い場所であるにも関わらず、多い時は3～4団体が重なるため対応に苦慮している。
- ・団体間の入れ替え時間がないことで、利用者同士のトラブルが発生することがある。また利用後の室場の確認もできないため、破損があっても団体が特定できないという問題が過去に発生している。

②主事室からの要望

- ・学校開放利用者（行政使用含む）の21時退門は厳守してほしい
- ・利用枠と利用枠の間に入れ替えの時間（15分～30分程度）を設けられないか

2 高円寺学園副学園長ヒアリング

11月16日に実施した主事室ヒアリングの内容を踏まえ、モデル事業における利用枠設定の見直しを中心に、ヒアリングを実施した。

(1)実施概要

- 実施日時 令和4年11月22日 17:30～18:30
- 実施場所 高円寺学園 学園長室
- 出席者 高円寺学園副学園長、学校開放担当係長、新しい学校づくり担当係長

(2)結果

- ・モデル事業の開始により、部活動の活動時間が制限されている現状がある。平日 18 時～の利用枠に合わせて、18 時までには室場から完全に出るよう指導しているが、本来は 18 時まで活動し、その後片づけを行うようにしたい。
- ・用務業務委託業者とは現在良好な関係を築けている。現場の主事に負担がかかる見直しを無理に行うことは、今後の学校運営にも支障をきたすことになるため、丁寧に進めてほしい。要望のあった入れ替えの時間について、開放時間数をなるべく減らさない方向で調整はできないか。
- ・学校によってもかなり状況が異なる。高円寺学園の特殊性を考慮してもらいたい。

3 高円寺学園への説明

これまでのヒアリング結果を踏まえ、今後のモデル事業の方向性について説明。下記内容について、主事室が対応できるのであれば学校側としては問題ない、との回答を得た。

(1)実施概要

- 実施日時 令和5年1月16日
- 実施場所 高円寺学園 学園長室
- 出席者 高円寺学園副学園長、副学園長、教育次長、学校支援課長

(2)高円寺学園との確認事項

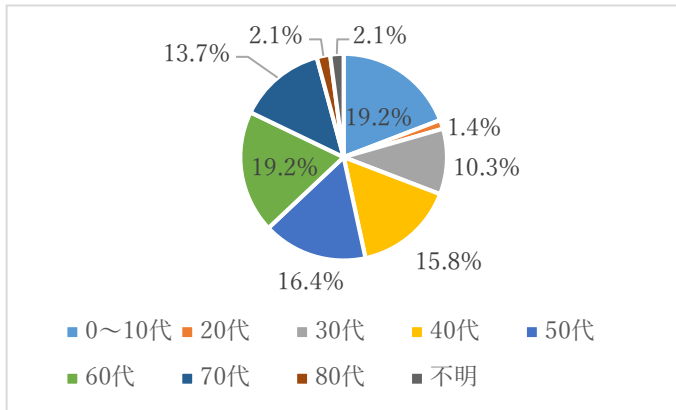
- ①部活動の時間に支障が出ないように、平日は 18 時半までを部活動の時間とし、利用枠は 19 時～21 時の設定とする。
- ②大小アリーナと交流ホールの利用枠は 9 時～21 時を 2 時間に区切る (※)。枠の間のインターバルは設けない。
※その後の検討において、交流ホールは時間的ゆとりを持って活動できるスペースとして位置づけ、2 時間枠に変更しないこととした。
- ③21 時までに着替えを終えて校門を出るという運用については継続し、区側でルールを徹底させる。

4 用務業務受託者(南信ビルメンテナンスサービス)への説明

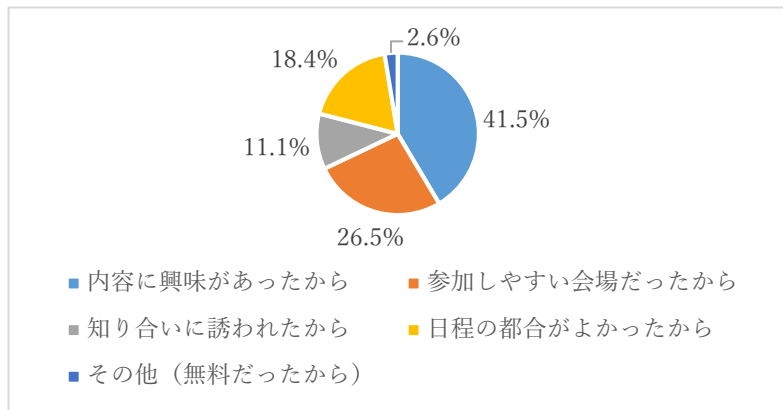
学校へ説明を行った今後のモデル事業設定について、用務業務受託事業者の担当者を通じて本部の承諾を得たうえで、現場の主事へ説明し、了解を得た。

- 実施日時 令和5年1月19日
- 出席者 用務業務受託業者担当、主事3名、学校支援課長

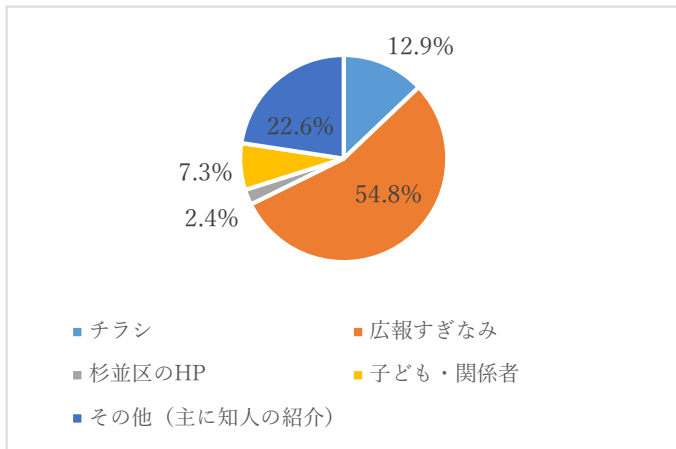
問1 参加者の年代



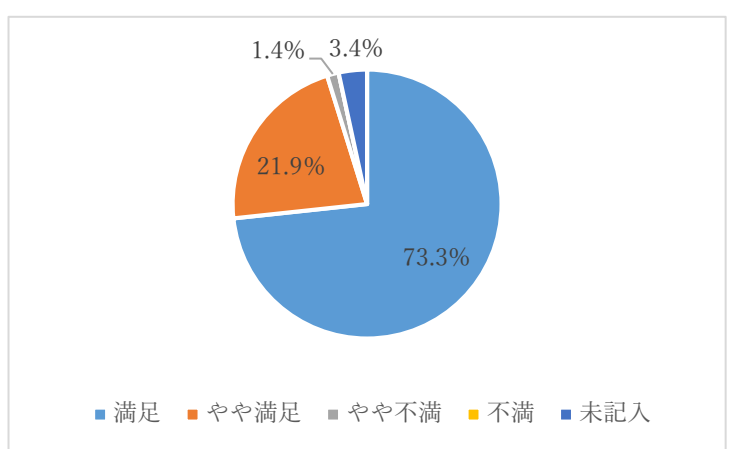
問2 参加しようと思った理由（複数回答可）



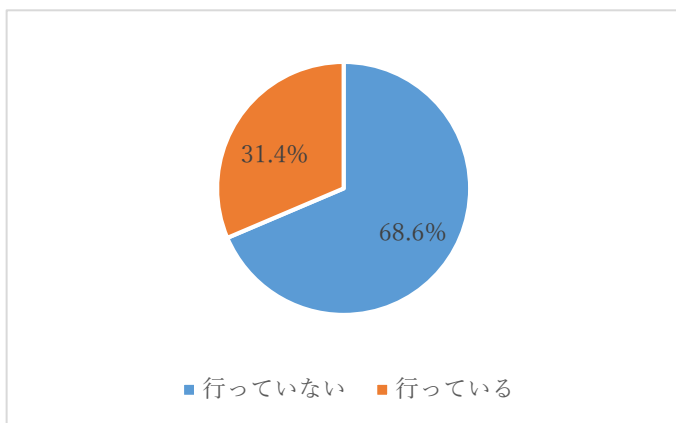
問3 教室を何で知ったか



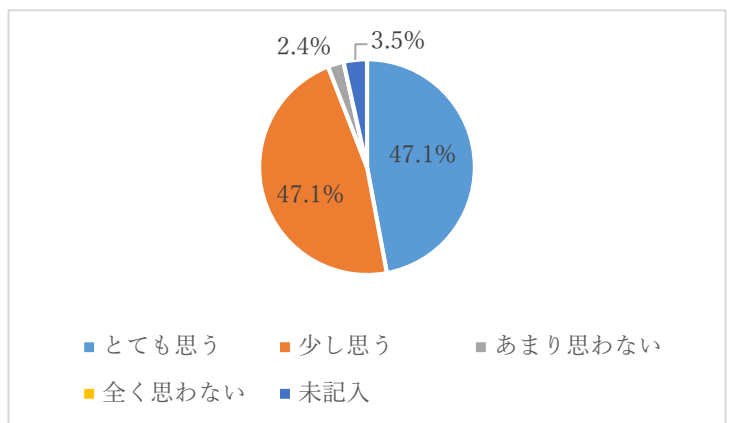
問4 教室の満足度



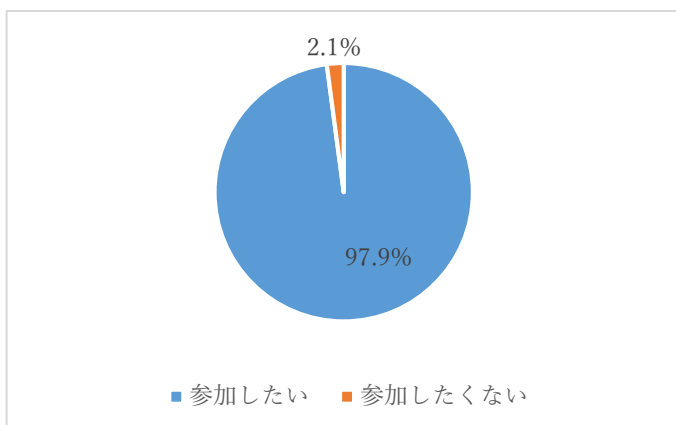
問5-1 定期的（週2回以上）
スポーツを行っているか



問5-2（定期的に行っていない方へ）
スポーツのきっかけづくりになったか



問6 今後もこのような事業に参加したいか



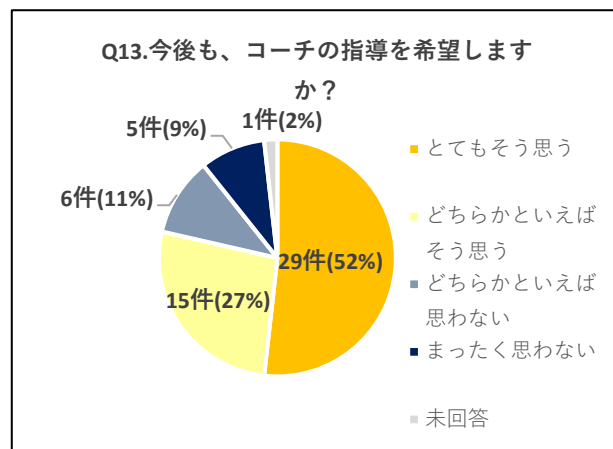
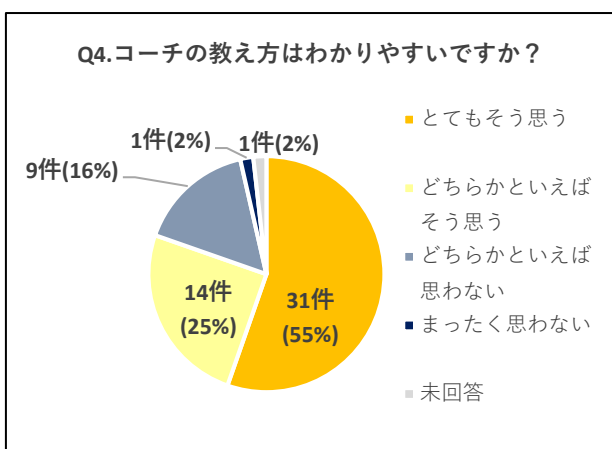
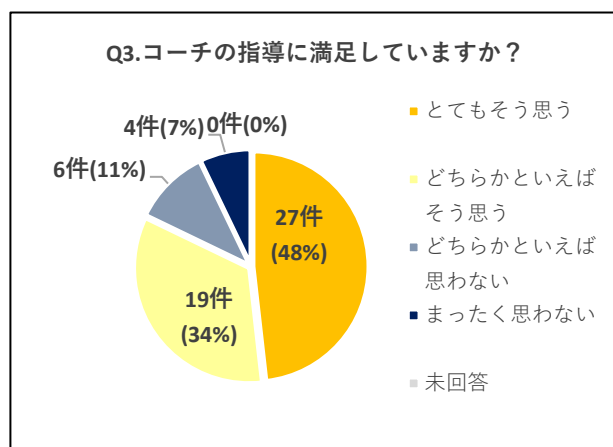
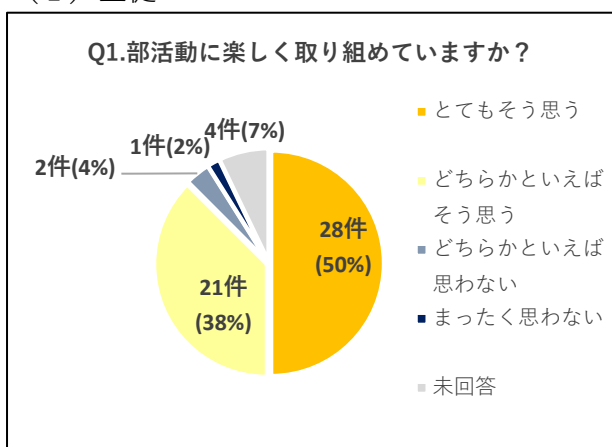
部活動の支援業務のアンケート結果（概要）

1 事業実施概要

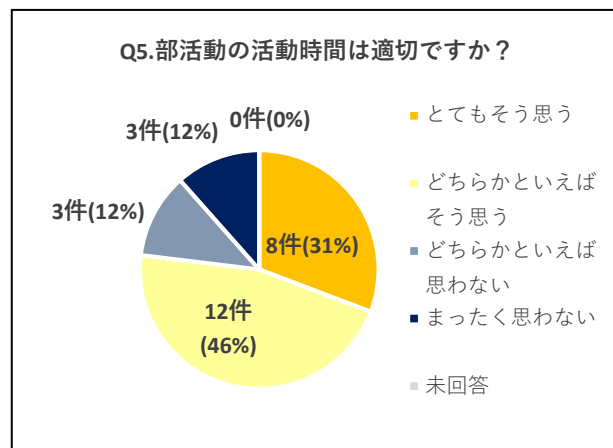
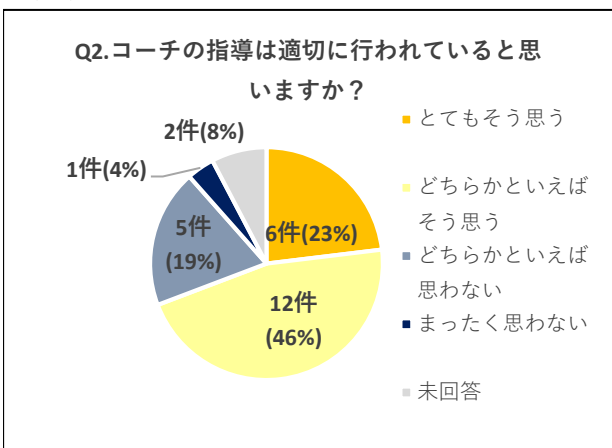
- 実施期間 令和4年9月21日～10月6日
- 実施方法 LoGoフォームによるアンケート
- 対象 高円寺学園運動部5部活の生徒、保護者、教員（管理顧問）

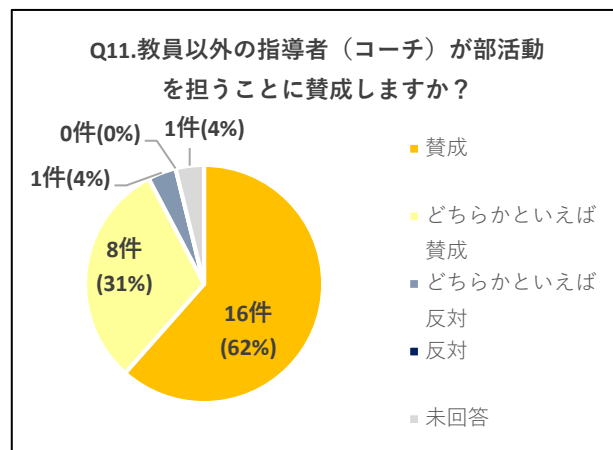
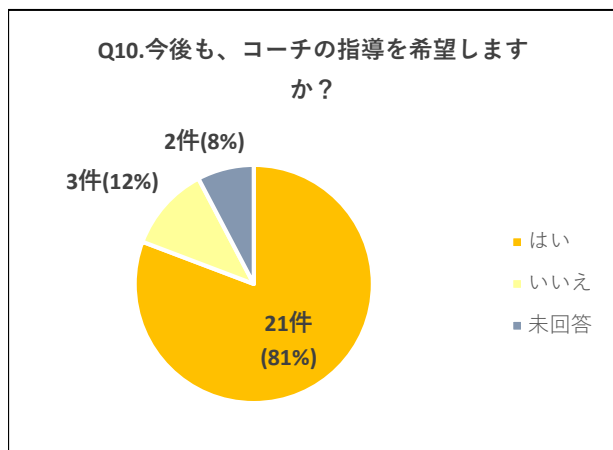
2 アンケート結果（抜粋）

(1) 生徒



(2) 保護者





(3) 教員

